

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

二十四節気「霜降」とされる時期となり、いよいよ冬支度の季節だ。秋が深まり彩りが増す山々にも、少しずつ冬の足音が聞こえて

くる。万物が5元素から成るとする自然哲学「五行説」では、秋の色は白だそうだ。白は気分を一新させる印象があるが、冬の訪れ間近との印象が強く、暖房関係費の高騰が続いており家計に与える影響が心配な家庭が多い事も事実だ。

意味だ。地球環境の改善や物価高への対応を、老後の最後の仕事にどの提案には不思議な魅力を感じてしまう。2009年11月から13年間コラム欄に掲載をし、先週初めてコラムを出稿する事ができなかった。体調悪化により

像以上の現場だった。入院する事が決まると、直ちにコロナ感染の有無を確認し病棟に直行して入院。単独で病院に行ったので、入院準備は全くなし。有料のアニメティセットが用意され当面不自由し

より手渡しとなるなど、コロナ感染防止対応への徹底ぶりだ。体温・血中酸素濃度・血圧測定など患者の健康管理は入院生活に安堵感を抱かせる。日課になっている新聞購読。入院時は無理

かと考えたが、病院スタッフが相談すると新聞店を紹介され電話にて希望新聞を配達依頼すると翌日から病棟入口まで配達され、スタッフ経由で病室にて受け取り購読できたことが単調な入院生活にどんなに助かったか知れない。医師・看護師・食

事に配膳スタッフ・清掃スタッフなど関係者全員が笑顔で言葉を伝えているような体制は本当に心温まるものだった。改めて感謝するしかない。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)

コロナ禍での医療現場の厳しさを知る

北アルプス医療センターあづみ病院

宮田守男 様

ご退院おめでとうございます
今後の御多幸と御健康を心よりお祈りいたします

北アルプス医療センター
あづみ病院 栄養科

最後の食事に温まるメッセージ。
食事の大切さ強く感じる